



2016年歯科技工所アンケート 調査結果と概要報告

PRESS RELEASE

2016年12月8日

関係者各位

超高齢社会の進行に伴い補綴治療の需要は増加することが予想される一方、公的歯科医療をささえる歯科技工士の高齢化と離職がすすみ、高齢者にとって欠かせない保険の補綴治療が、近い将来困難になることが危惧され、この問題の改善が重要な課題となっています。

そうした状況のもとで、医師・歯科医師の団体として、歯科技工所(士)の実態、意識を理解するとともに、問題解決のためにどのような方策、手立てが必要か検討するための基礎資料とすることを目的に「2016年歯科技工所アンケート」を実施しました。

※詳細は下記URLをご参照下さい。

http://hodanren.doc-net.or.jp/news/tyousa/161208_sikagiko.html

【照会先】全国保険医団体連合会 歯科担当事務局
(電話)03-3375-5121 (直通) 03-3375-5120
(ファクス) 03-3375-1862
(E-mail)hide-tamu@doc-net.or.jp
(田村秀樹)

2016 年歯科技工所アンケート

結果と概要報告

I. 調査の方法、期間など

全国の 38 都府県の各保険医協会を通じて、都府県内の各歯科技工所 12,072 軒（うち 679 軒が宛名不明、廃業などで不達）にアンケート用紙を送付し、封書および FAX 2,454 件から回答があった。回答率は、20.3%。

調査期間は、2016 年 4 月～6 月。（※滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山は 2015 年 9 月～10 月、東京は 2015 年 10 月～11 月に同じ項目で実施）

II. 調査結果

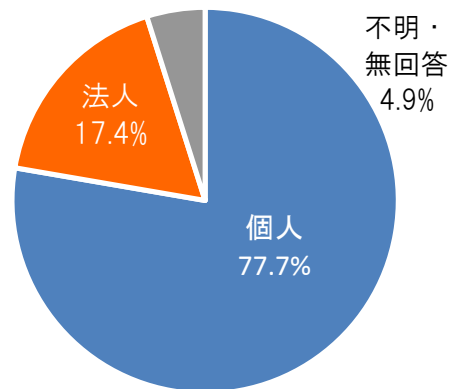
(1) 回答者の属性

平均年齢は 55.8 歳、開業年数は 22.7 年、開業形態は、個人が 81.7%、法人が 18.3%。

【開設者の年齢】

	件数	全体(%)	除不(%)
20 代	6	0.2	0.3
30 代	120	4.9	5.1
40 代	421	17.2	18.0
50 代	990	40.3	42.4
60 代以上	799	32.6	34.2
不明・無回答	118	4.8	
全体	2,454	100.0	2,336

【開業形態】



(2) 事業所の規模

歯科技工所の規模は、「1 人」が 67.1%（個人 76.4%、法人 17.6%）、「2～3 人」が 21.3%（個人 20.1%、法人 24.6%）、「4～9 人」が 8.2%（個人 3.5%、法人 28.1%）、「10 人以上」が 3.4%（個人 0.1%、法人 18.1%）だった。常勤歯科技工士は、「1 人」が 66.8%、「2～3 人」が 21.4%、「4～9 人」8.2%、「10 人以上」が 3.6%であった。

同様に事務職員数は、「0 人」が 38.4%、「1 人」が 50.2%（常勤 41.9%）、「2～3 人」が 8.2%（常勤 5.4%）、「4～9 人」が 2.3%（常勤 1.4%）、「10 人以上」は 1.0%（常勤 0.6%）だった。

(人)	平均値	※
歯科技工士数	3.11	2.25
事務職員数	1.30	0.90

※歯科技工士数 100 人以下を対象

(3) 1 日の歯科技工と外交(営業・納品)にかかる時間

1 日の労働で、技工に係る時間と外交（営業・納品）に係る時間の 1 人平均を尋ねた。技工に係る時間は 1 人平均で 10.6 時間、外交に係る時間は 1 人平均 2.2%だった。

(時間)	一人平均
歯科技工に係る時間	10.63
外交に係る時間	2.22

(4) 技工物についての歯科医師との情報・意見交換

営業・納品時における技工物についての歯科医師との情報・意見交換については、「よくできる」が54.2%、「あまりできない」が19.3%、「どちらともいえない」が26.5%だった。

	件数	全体(%)	除不(%)
よくできる	1,261	51.4	54.2
あまりできない	449	18.3	19.3
どちらともいえない	616	25.1	26.5
不明・無回答	128	5.2	
全体	2,454	100.0	2,326

(5) 1週間の労働時間、休日(開設者のみ、年齢別、開業形態別)

1週間の労働時間を年齢別にみると、「30代以下」と「40代」では、「101時間以上」でそれぞれ20.6%、19.5%、「50代」では「71～80時間」が18.6%、「60代以上」は42時間以上が最も多かった。

1週間のうちの休みの日数では、各年代とも「1日」が41.3%～49.6%と最も多かったが、「ほとんどとれない」が「30代以下」が34.1%、「40代」が34.9%、「50代」が37.2%などとなっている。

	件数	全体(%)	除不(%)
42時間以内	241	9.8	10.4
43～50時間	244	9.9	10.5
51～60時間	335	13.7	14.4
61～70時間	337	13.7	14.5
71～80時間	379	15.4	16.3
81～90時間	308	12.6	13.3
91～100時間	227	9.3	9.8
101時間以上	250	10.2	10.8
不明・無回答	133	5.4	
全体	2,454	100.0	2,321

	件数	全体(%)	除不(%)
2日	273	11.1	11.8
1日	1,118	45.6	48.2
ほとんどとれない	749	30.5	32.3
その他	178	7.3	7.7
不明・無回答	136	5.5	
全体	2,454	100.0	2,318

(6) 昨年度の総売上(おおよその年額、法人の場合は代表者)

昨年度の総売上では、歯科技工士が100人以下(いくつかの大規模事業所を除いた)の場合、平均1724.3万円、個人872.6万円、法人5568.1万円だった。

総売上の区分では、「1000万円以下」が32.5%、「500万円以下」が28.1%と、全体の6割を超えた。

年齢別では、「1000万円以下」が「30代以下」で34.1%、「40代」で39.7%、「50代」で37.8%と最も多かった。

	件数	全体(%)	除不(%)
500万円以下	689	28.1	31.5
1000万円以下	796	32.5	36.4
3000万円以下	460	18.8	21.1
5000万円以下	105	4.3	4.8
7000万円以下	54	2.2	2.5
9000万円以下	19	0.8	0.9
9001万円以上	61	2.5	2.8
不明・無回答	266	10.9	
全体	2,450	100.0	2,184

(%)	500万円以下	1000万円以下	3000万円以下	5000万円以下	7000万円以下	9000万円以下	9001万円以上	不明・無回答
30代以下	23.0	34.1	23.0	3.2	4.0	-	1.6	11.1
40代	18.1	39.7	23.5	5.2	1.9	1.0	3.1	7.6
50代	26.9	37.8	21.2	4.2	1.9	0.9	1.9	5.2
60代以上	39.4	26.4	14.9	4.6	2.6	0.8	3.8	7.5

(7) 昨年の可処分所得(総売上一経費、法人の場合は代表者の報酬 おおよその年額)

可処分所得は、歯科技工士 100 人以下の場合、平均 931.4 万円、個人 317.2 万円、法人 3609.7 万円だった。

所得区分では、「300 万円以下」が 22.7%、「200 万以下」が 19.2%、「400 万以下」が 18.0%などであった。

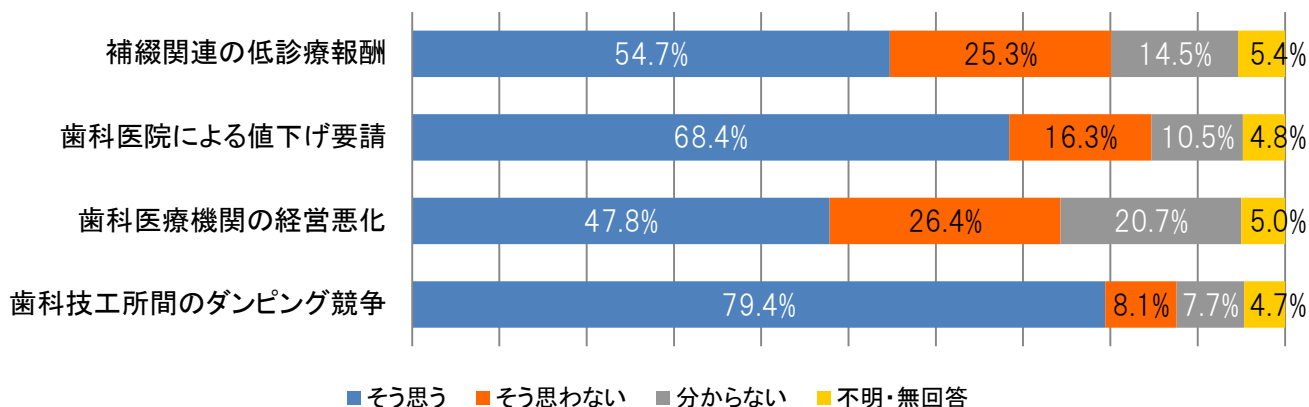
また、各年齢別では、「300 万円以下」が最も多く、「60 代以上」で 21.7%、「40 代」で 20.4%、「50 代」で 18.5%、「30 代以下」で 15.1%であった。

	件数	全体(%)	除不(%)
100 万円以下	233	9.5	11.4
200 万円以下	392	16.0	19.2
300 万円以下	463	18.9	22.7
400 万円以下	367	15.0	18.0
500 万円以下	243	9.9	11.9
600 万円以下	132	5.4	6.5
700 万円以下	67	2.7	3.3
800 万円以下	58	2.4	2.8
900 万円以下	20	0.8	1.0
901 万円以上	62	2.5	3.0
不明・無回答	417	17.0	
全体	2,454	100.0	2,037

(%)	100 万円以下	200 万円以下	300 万円以下	400 万円以下	500 万円以下	600 万円以下	700 万円以下	800 万円以下	801 万円以上	不明・無回答
30 代以下	7.1	14.3	15.1	11.9	16.7	7.9	3.2	4.0	2.4	17.5
40 代	6.7	12.6	20.4	18.8	10.2	7.8	3.3	2.4	4.5	13.3
50 代	8.3	16.6	18.5	17.7	12.1	6.1	3.1	3.4	3.5	10.7
60 代以上	14.1	19.3	21.7	12.1	7.4	3.5	2.3	1.1	3.1	15.4

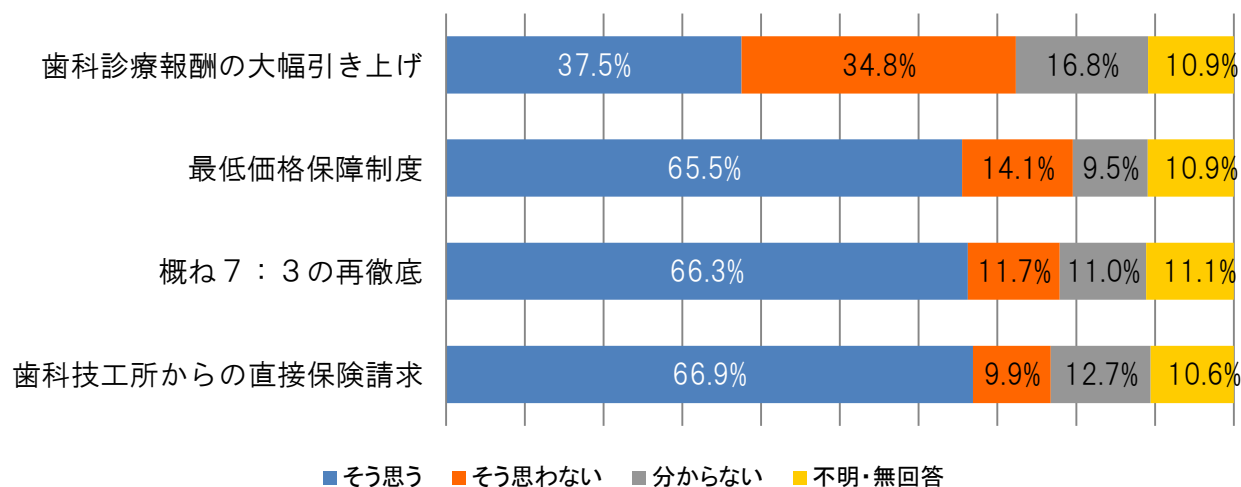
(8) 歯科技工物が低価格になる原因について

歯科技工物の価格が低くなる原因について、「そう思う」と回答した中で、79.4%が「歯科技工所間のダンピング競争」が 79.4%で最も多く、「歯科医院による値下げ要請」は 68.4%、「補綴関連の低診療報酬」は 54.7%、「歯科医療機関の経営悪化」は 47.8%と回答した。



(9) 適正な技工料を保障するための方策

適正な技工料金を保障するためにどのような方策が有効かについては、「歯科技工所からの直接保険請求」が66.9%と最も多く、「最低価格保障制度」が66.5%、「概ね『7:3』の再徹底」が66.3%、「歯科診療報酬の大幅引き上げ」が37.5%と回答した。



(10) 保険技工物の現行料金と希望価格

保険技工物の現行料金と希望価格を6項目について尋ねた。現在の取引価格と歯科技工士の希望価格を比べると「インレー複雑」が平均値63.2%（中央値65.0%）、「有床義歯5-8歯（床基本料）」が平均値65.7%（中央値76.0%）、「有床義歯9-11歯（床基本料）」が平均値66.4%（中央値74.2%）、「全部鑄造冠」が平均値66.5%（中央値65.1%）、「鑄造二腕鉤」が平均値68.3%（中央値65.1%）、「硬質レジン前装冠」では平均値70.4%（中央値62.5%）と、全ての取引価格が歯科技工士の希望価格より、6割から7割程度となっている。

概ね7:3とする大臣告示の配分を基準に、現行の保険点数×70%で計算した価格と歯科技工士の希望価格との比較では、「硬質レジン前装冠」を除く5項目で価格が保険点数の70%の価格を下回った。

(円)	現行 (※1)	希望 (※1)	現行 (※2)	希望 (※2)	×70%	現行時 間単価 (※2)
硬質レジン前装冠	5,466	7,754	5,000	8,000	8,220	2,000
有床義歯5～8歯（床基本料）	3,987	6,068	3,800	5,000	4,960	1,208
有床義歯9～11歯（床基本料）	5,438	8,188	5,200	7,000	6,580	1,300
インレー複雑	1,334	2,111	1,300	2,000	1,990	977
全部鑄造冠	2,261	3,398	2,200	3,000	3,180	1,353
鑄造二腕鉤	1,361	1,992	1,300	1,998	1,550	1,023

※1 平均値、※2 中央値

(11) 制作時間と時間単価

(9)と同じ6項目の製作に要する時間（平均）では、「有床義歯9-11歯（床基本料）」が367.2分、「有床義歯5-8歯（床基本料）」が342.6分、「硬質レジン前装冠」が202.0分だった。「全部鑄造冠」は137.0分、「鑄造二腕鉤」は121.1分、「インレー複雑」は118.4分だった。

また、現行取引価格と製作時間から時間単価を計算した場合（中央値）、歯科技工士の希望価格には程遠く、「硬質レジン前装冠」が 2,000 円で、その他は 977 円～1,354 円であった。

(12) 不採算項目

保険技工で最も不採算と思うもの 3 項目として、「義歯関連」が 31.8%が最も多く、「インレー」が 15.2%、「クラウン」が 12.2%で、その他「クラスプ・バー」、「コア」、「前装冠」ながあげられた。

(13) 後継者や仕事のやりがい

後継者については、全体は「いない」が 70.5%で、50 歳以上の 1 人ラボでは、84.9%にのぼった。また、仕事のやりがいについては、「ある」が 45.1%、「ない」が 43.0%だった。

【後継車の有無】

カテゴリ	件数	全体(%)	除不(%)
いる	463	18.9	20.1
いない	1,732	70.6	75.2
その他	108	4.4	4.7
不明・無回答	151	6.2	
全体	2,454	100.0	2,303

【仕事のやりがい】

カテゴリ	件数	全体(%)	除不(%)
ある	1,022	41.6	45.1
ない	974	39.7	43.0
その他	269	11.0	11.9
不明・無回答	189	7.7	
全体	2,454	100.0	2,265

(14) 自由意見欄

別掲

現在、歯科技工士はわが国の公的歯科医療を支える重要な部分を担っている。今後超高齢社会を迎えるにあたり、良質な修復・補綴物を提供がするうえで、歯科技工士の果たす役割は一層重要だと考える。

長年の国による低歯科医療費政策のもと低診療報酬が続き、あわせて歯科医院を点数による 2 極化を歯科医院の経営も厳しい状態が続いている。

そのなかで、補綴関連の評価も歯科技工士も低報酬にさいなまれ、職業としての将来が危ぶまれる状況が続き、抜本的解決が求められる。

今回のアンケートには、2500 近い歯科技工士・所から回答をいただく大変貴重な集計結果である。広範な市民、医療関係者、政府、国会議員などに広く広報するとともに、歯科医師、歯科技工士が、保険で良い歯科技工物を提供するための方策を検討し、歯科技工問題解決のための一助とし活用したい。